

# 水にありかたとう

## 二十一世紀の今、よみがえる道元禅師の思い。

高時川上流、余呉町管並に、中世に建立された塩谷山洞寿院という立派なお寺があります。曹洞宗では、日々の暮らしの一手一投足すべてを仏道の修行であるとしており、水に関しても大切に扱われています。例えばどのようなことが洞寿院でお話をお聞きしました。

悟りに通じる

「水を大切にすること」

洞寿院の本山は福井県の本山永平寺と神奈川県の大本山總持寺です。その永平寺の正門には石の門柱があります。その左右に立てられた門柱には「水」にまつわる言葉が彫り込まれています。

**杓底一残水** 杓底の一残水  
**汲流千億人** 流れを汲む 千億の人

これは、永平寺の御開山道元禅師（1200～1253年）の日常の心構えの真髓を、後の七十三世熊沢禅師（18

73～1968年）が的確に偈（詩）に詠まれたものです。道元禅師は、洗面などの際に水を谷川からくみ、柄杓の底に残った水を「仏の御いのち」と思われ、大切に川に戻され、柄杓に残った水さえも粗末にされませんでした。大切に

かかその恵みを得られるからです。また、道元禅師が書かれた『典座教訓』という書物にも、「古に言う、米を淘るに水は是れ身命なりと知る（米をとぐとき水を自分自身の命そのものだと思いみなす）」と記されており、水を大切にすることが今も教えられています。地球が誕生して以来、水は私たち生

きとし生けるものの生命を守り、育んできました。曹洞宗では、日々の生活・行動が全て、仏作仏行（仏としての作法であり、行いである）と考え、暮らしの中で水の節約を通して、ものの命を生かせと教えています。水に限らず一粒の米、一茎の野菜もその命を生かし、粗末にしないことが、多くの人や生き物の命を支えることになるのです。



永平寺の門柱

夏場で特に汗をかく時期は、ときどき「淋汗」という臨時入浴があるものの、原則として「四九日」（4、9、14、19）と1の位に4と9の付く日）にだけ、髪や髭を剃り爪を切り入浴するのです。もちろん髪を剃るのに使う水も桶一杯だけです。入浴も身心を清めるための修行であるので、水を大切に扱いは許されません。

食後の食器洗いに使う水も極力節約しています。雲水たちは、本来は托鉢にも使う6枚重ねの丸い器「応量器」で食事をします。食事の最後に木のヘラにガーゼを付けた「刷」で器をぬぐい、器に白湯を入れます。白湯で器を洗い、その湯を次の器に移して次々と洗い、最後は「折水」と呼ばれる桶に返して、応量器に残った数滴は必ず飲み干します。折水にためた湯は小川へ戻します。

**徹底した節水**  
永平寺の雲水（修行僧）たちはこの教えに従い、水に感謝、水を大切にしながら生活を送っています。

例えば洗面に使う水。分量は桶一杯だけ。これだけの水で、手で水をすくって口をすすぎ歯を磨き、残りの水で顔と頭の後ろまで洗い清めるのです。一つの動作ごとに水に感謝する「偈」を唱えます。

「開浴（入浴）」も5日に1回だけ。豪雨が増えるためです。衛生的な淡水

掃除の雑巾がけに使う水は、雨水を溜めたものや小川の水を使います。

今世紀半ばには

世界で40億人が水不足に

昨年12月に別府市で開かれた「アジア・太平洋水サミット」では、参加各国の首脳たちが口をそろえて「地球温暖化による水危機」を訴えました。降雨パターンが極端になって干ばつや

が安定的に供給されない「水ストレス」にさらされている人が世界で既に25億人に上り、今世紀半ばには40億人が水不足に見舞われると見込まれています。一方で水害が増え、食料生産にも影響が出るとの予想です。世界的に飲み

水の確保に関心が高まっています。

今こそ、万物の根源である水を絶やさないように、水に対する気持ちを改めて見直し、私たちにできることを考えて行動していく時ではないでしょうか。

### 洞寿院境内の故森本警部水難の碑

明治時代にも洪水は度々発生しました。その中で、湖北に特に大きな災害をもたらしたのが明治28年7月の洪水です。

7月29日、湖北の諸川で氾濫が発生。片岡村柳ヶ瀬（現・余呉町柳ヶ瀬）では余呉川の氾濫で3棟を除き全集落が浸水。高時川上流の集落では、山は崩れ、家は流され、稲も倒れ、橋梁も壊れて往来もできず、最も

激しい被害となりました。そのため、丹生村（現・余呉町）北部は孤立し、人々は不安にさいなまれました。

滋賀県は急ぎよ森本兵二警部率いる救助隊を派遣。警部らは幾度も危険を冒しながら進み、献身的な救護活動にあ

りました。しかし、8月2日の帰路、警部は増水した川にのみ込まれて殉職してしまつたのです。村人たちは彼の功績を後世に伝えるために洞寿院の境内に石碑を建て、その遺徳を讃えました。

※この碑に関して、丹生ダムホームページに詳しく載せております。



水難の碑（平成19年8月撮影）